

単元名 だれもが笑顔で！チャレンジアップ大作戦

第4学年3組 小山美苗 児童数 36名

1. 単元設定の理由

(1) 子どもの実態

本校の子どもたちは、横浜市の新興住宅区域に育ち、そのほとんどが核家族世帯の家族の中で生活している。幼児期、低学年から、習い事や塾で時間を過ごすことが多く、指導者や同年代の子ども同士のかかわりが生活の中心である子が多い。

これまでの生活科や総合的な学習の時間の中では、山内のまちのよさを感じ、地域の農家や川、神社について学習したりまちの人と交流したりしながら、地域への理解や愛着を広げてきた。

子どもたちは普段の生活の中で、素直で明るく身近な人への挨拶がはきはきと上手にできる。また、自分たちの生活をよりよくしようと学年活動や学級活動に意欲的に取り組んでいる。一方、お年寄りや体の不自由な人など様々な人々が身の回りのまちで共に生活しているという実感は薄く、このような人々に意識を向けたことや、自分とのかかわりについて考えた経験はあまりない。

(2) 材の価値

本校はあざみ野駅から徒歩5分という場所にあり、学区の中には、駅周辺を核とした公共機関をいくつも抱えている。こうした施設には、広い市域から様々な目的でたくさんの人々が集まってくる。施設で働く人のお話や施設の仕組みからは、訪れる人々が、どんな人でも、同じように快適に利用できるよう工夫され、そのために施設で働く人が努力していることが伝わってくる。

普段の生活の中でいつも身近に利用している施設を見学し、こうした視点に触れることは、施設のよさを再発見するだけでなく、だれもが幸福に暮らすことのできる社会のよさ、大切さに気付くきっかけの場となっている。

また、4年生は、主に隣接域である市が尾の青葉区社会福祉協議会とのつながりから、障がいをもつ方々との交流活動を行ってきた。視覚、聴覚、肢体に不自由さを抱えた人々との出会いを通して、自分たちの暮らす社会では様々な人々が様々な思いをもって生きていることに気付かされる。出会った人々の人柄、心の温かさに触れ、当事者の方々の暮らしや思いを知ることを通して、自分に何ができるのかを考える学びが生まれている。

(3) 教師の意図

子どもたちは、日常生活の中で社会に生活する多様な人々とかかわってきた経験は少ない。単元の初めには身近な公共施設の様子に目を向け、まちで様々な人が共に暮らしていることに気付かせたい。

さらに当事者の方々と直接かかわり、交流を繰り返し体験する。子どもたちは当初、初めて出会う人々を前にとまどいを感じることもあるだろう。交流の中で障がいをもつ方の暮らしの様子や思いに触れ、コミュニケーションを図りながら、心を通わせていきたい。さらに子どもが思いや願いをもちながら、互いに楽しむことができるような交流の形を考えていく。交流する方の気持ちや立場に立って交流の仕方を考えたり、暮らしの中で自分にできることを考えたりしていく。

活動を通して、周りのどんな人とも温かなかかわりを結ぶために、学年目標の実現と重ね、自分から働きかけ行動することのできる力を育てていきたい。また、人のために考え行動することによって、何より自分自身が嬉しくなることに気づき、その中で自分の成長を実感できるようにしていきたい。

2. 単元目標

身の回りのバリアフリーの様子を調べ、障がい者の方と交流する活動を通して、だれもが安心して生活するための工夫や障がい者の方々の思いや願いに気づき、自分にできることを考え実践しようとする。

3. 学習内容

| 学習課題 | 学習対象 | 学習事項 |
|------|---------------------------------|--|
| 福祉 | 地域に暮らす障がい者の方とその暮らしを支える人々や施設やしくみ | ・身の回りの障がい者の方とその暮らし ・障がい者の方とともに生きることの大切さ ・自分にできることを考える態度や思いやりの心 |
| キャリア | さまざまな人が利用する公共施設と人 | ・施設の様々な仕事と働く人々の願い ・身の回りの障がい者の方とのかかわりから気づく自分自身の在り方 |

4. 単元の評価規準

| 評価の観点 | 具体の評価規準 |
|-----------------------|---|
| 学習方法に関する こと | ① 障がい者の方との交流から自分にできそうなことを考え、計画している。 ② 施設の見学や障がい者の方との交流を通し、必要な情報を選択している。 ③ 体験や考えから伝えたい事柄を選び、相手や目的意識をもってわかりやすく表現している。 |
| 自分自身に関する こと | ① 障がい者の方の思いに気づき、よりよい交流をしようと課題解決のために、自分のやるべきことを決定している。 ② 障がい者の方とのつながりに気づき、共に生きる者として自分の生活を振り返り、よりよくしようと行動している。 |
| 他者や社会とのかかわりに 関すること | ① 障がい者の方などの話を聞いたり、自分の考えや思いを伝えたりして交流している。 ② 自分や仲間のよさを生かして協力しながら課題の解決に取り組んでいる。 |

5. 関連する教科領域等

| 教科領域等名 | 学習内容 | 時間数 |
|--------|--|-----|
| 国語 | ・関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 ・相手や目的に応じて、理由や事柄などを挙げながら丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 | 6 |
| 音楽 | ・曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 | 2 |
| 道徳 | ・相手の気持ちを考えて、温かい心で親切にしようとする。 | 1 |
| 特活 | ・グループ内の組織作りや仕事の分担処理・望ましい人間関係の育成 ・希望や目標をもって生きる態度の育成 | 3 |

6. 研究主題との関わり

平成 28 年度 横浜市小学校生活科・総合的な学習の時間研究会 研究主題

学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間

《テーマに迫るための手立て》

○学習や体験を通して得られる一人一人の気づきをつなぎ、子ども同士の学び合いを生み出すために、少人数、グループ、全体と、計画や振り返りに関わる話し合いの形態を意図的・弾力的に設定したい。クラスには全体の場での話し合いが得意でない子もいるが、一人一人が思考し、自分なりの言葉を語り、それを土台としながら対象を自分ごとととらえていくようにしていきたい。こうした話し合いの形やそこで培われる力は国語、算数、社会など他教科の学習で相互に生かし合いたい。

また、個々の気づきやそのつながりを可視化するために、ウェビングマップやブレインストーミングなどを適宜活用し、全体で情報を共有できるようにしていきたい。（教科等・一人一人の学びをつなぐ）

○前時までの体験や気づきが次時への課題とつながるように、体験活動ごとに振り返りカードを書き、視点をもって思考を整理していく時間を設定する。その後、なぜそう考えたのか根拠を明確にして意見交流し、互いの考えを知ること、課題が焦点化できるようコーディネートする。単元を通して「だれに」「何のために」やっていくのかを子どもの中で明確にすることを大切に、課題意識が連続するようになりたい。（授業と授業、単元と単元をつなぐ）

○自分自身が感じたことや学んだことを、子どもが自分の成長ととらえ、生活に活かしていくことができるようにしたい。そのために振り返りの意見やカードの記述に対する価値づけを、教師が丁寧に与えていくようにしたい。（新たなものの見方や考え方、生き方へとつなぐ）

7. 単元構想図

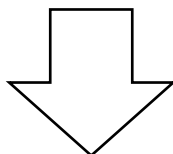
「だれもが笑顔で！ チャレンジアップ大作戦」(『横浜の時間』5 5時間)

1 山内のまちの工夫を見つけよう (総合 10h・国語 5h)

- 福祉について知っていることや学習していきたいことを話し合う。
- まちの公共施設やそのまわりにあるバリアフリーの様子に着目する。
- あざみ野駅、山内図書館、アートフォーラムあざみ野を見学する。
- 公共施設のバリアフリーについて気づいたことや感想を話し合う。
- 学習したことを新聞や模造紙にまとめる。

見学活動⇒学年全体
話し合い・まとめ⇒学級

- ・ 去年の4年生が、学習発表会で歌っていた手話コーラスはすてきだったね。
- ・ 手話といえば、耳の不自由な人が使うものだよ。山内図書館前にある音の出る信号や黄色いブロックは、目の不自由な人のためにあるよね。
- ・ まちや公共施設にある工夫をもっと知りたいな。
- ・ 駅にも、図書館にも、アートフォーラムにも、どんな人も利用しやすいように考えた工夫がたくさんあったよ。施設の人が「バリアフリー」という言葉を教えてくれた。
- ・ 目の不自由な人や耳の不自由な人は、どんな思いでくらしているのかな。
- ・ 実際にお会いして、お話を聞いてみたいな。



2 ようこそ、わたしたちの学校へ (総合 12h・音楽 2h・道徳 1h)

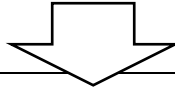
- 視覚障がいについて学習し、理解する。
- 「ブレーメン」の人たちの音楽を聴いたり歌で共演したりする。
誘導體験から視覚障がいの方の暮らしや思いについて知る。
- 聴覚障がいについて学習し、理解する。
- Kさんから手話を教わり、聴覚障がいの方の暮らしや思いについて知る。
- 障がい者スポーツについて学習し、理解する。
- 車いすバスケットを楽しむ人々との交流から、車いすでの暮らしやスポーツへの思いを知る。

事前学習⇒学級
交流①⇒学年全体

- ・ブレーメンのメンバーは明るく愉快な人たちだね。
- ・見えない人を誘導するって大変なんだね。
- ・一緒に歌えて嬉しかった。
- ・もっと楽しく交流して皆さんとなかよくなりたいな。

- ・Kさんはやさしくて明るい人だね。
- ・手話や表情から、聞こえなくても伝えたいことが伝わったよ。
- ・もっと手話を使ってKさんたちと話したいな。

- ・車いすなのに、すごいスピードでドリブルしているよ。
- ・車いすを動かすのは難しい。
- ・みんな生き生きとスポーツを楽しんでいるね。
- ・もっと車いすバスケットで交流できたらいいな。



3 もっとなかよく交流したいな (総合 4h・特活 2h・音楽/総合/体育 2h)

- 最初の交流会の振り返りをする。
- 活動別グループに分かれて話し合い、次回の交流会の計画を立てる。
- グループごとに、交流会をする。(音楽、手話、車いすバスケット)
- 交流する方々の一人一人の思いをさらに聞く。
- 交流した方々に手紙を書き、感想を伝えたり質問したりする。

交流①の振り返り⇒学級
交流②に向けて・交流②
⇒学年横割りグループ

【ブレーメン】

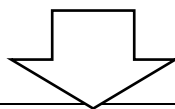
- ・今度はリコーダーでみなさんと合奏したいな。
- ・一緒にゲームで遊びたいな。
- ・もっと誘導體験をさせてもらいたいな。
- ・メンバーに聞いてみよう。

【手話】

- ・もっとたくさんの手話を教えてもらいたいな。
- ・手話を使って一緒に楽しめる遊びはないかな。
- ・Kさんたちに聞いてみよう。

【車いすバスケット】

- ・車いすに乗ってできるゲームがしてみたいな。
- ・車いすを動かして一緒に歩いてみたいな。
- ・バスケットのメンバーの人たちに聞いてみよう。



4 体験したことをまわりの人に伝えよう (総合 6h・国語 5h)

- グループごとに、これまでの活動を通して学んだことを振り返る。(写真・映像・掲示物)
- だれに、どんなことを伝えたいかを話し合い、発表の方法を考える。
- 伝えたいことをもとに、学習発表会で発表する。

学年横割りグループ

楽しい時間を過ごせてよかった。これからも身の回りで自分にできることをしていきたいな。

5 自分にできることから始めよう (総合 6h)

- 学校ホームページで学んだことを発信する。
- 交流の形を考え、繰り返し交流する。
- 身近な日常生活の中に生かす。

話し合い・交流⇒学年横割り
日常⇒学級・学年

8. これまでの活動の流れ

| 時 | 学習活動と内容（・） | 教師の支援（○）と評価（★） |
|-----|---|--|
| 1 | <p data-bbox="240 264 890 427"> 昨年の4年生の学習発表会を思い出して、障がいのある人や暮らしについて知っていることを話し合おう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 去年の学習発表会では、4年生の歌っていた手話コーラスがすてきだったね。 ・ 手話や点字、盲導犬のことなどを伝えてもらったよ。 ・ 手話は耳の不自由な人のためのものだね。 ・ 点字は目の不自由な人が使うものだよ。国語の教科書にも点字の話が載っている。 ・ 車いすに乗っている人をお店で見かけたよ。 ・ テレビでパラリンピックのニュースをよく見るよ。 ・ 駅の周りには、黄色いブロックがたくさんある。 ・ 図書館のまわりにもあるよ。 | <p data-bbox="1002 255 1453 338">○ 昨年の学習発表会から、障がい者福祉の課題に目を向けさせる。</p> <p data-bbox="1002 450 1453 577">★ 昨年の経験からつなげて身の回りの様子を思い起こし、意欲的に話し合っている。</p> |
| 2 | <p data-bbox="240 931 890 1055"> これからの総合の時間で取り組みたいことを考えよう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山内のまちには、障害をもつ人のための工夫がたくさんありそうだね。 ・ まちのバリアフリーを探しに行きたいな。 | <p data-bbox="1002 927 1453 1010">○ 身の回りのまちの様子に目を向けるようにする。</p> <p data-bbox="1002 1077 1453 1160">★ 身の回りのことから、課題を発見しようとしている。</p> |
| 3 | <p data-bbox="240 1216 890 1290"> 山内図書館は、どんな場所だろう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山内図書館はいつも行っているけど、目の不自由な人はどうやって本を読むのかな。 ・ 本を探すときはどうするのだろう。 ・ 調べに行きたいな。 | <p data-bbox="1002 1216 1453 1299">○ 視点をもって見学できるよう事前に意識づけをする。</p> <p data-bbox="1002 1310 1453 1438">★ 山内図書館の様子から、障がい者の方の視点に立って課題を見つけようとしている。</p> |
| 4~6 | <p data-bbox="240 1507 890 1581"> 山内図書館の工夫を見つけよう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 床にはブロックのかわりに誘導じゅうたんがある。 ・ 点字の本や、大活字本がたくさんある。 ・ カウンターに筆談器がおいてあった。 ・ 車いすで入れる多目的トイレがあるね。 | <p data-bbox="1002 1507 1453 1590">○ 施設の人の思いをとらえることができるようにする。</p> <p data-bbox="1002 1601 1453 1776">★ 見学活動を通して、施設の人に質問しながら、館内のバリアフリーや様々な工夫について情報を集めている。</p> |
| 7 | <p data-bbox="240 1798 890 1872"> アートフォーラムは、どんな場所だろう。 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アートフォーラムなら、発表会や工作教室で行ったことがある。 ・ 館内はとっても広いよ。体の不自由な人や目の不自由な人は、困ってしまいそうだね。 | <p data-bbox="1002 1798 1453 1881">○ 視点をもって見学できるよう事前に意識づけをする。</p> <p data-bbox="1002 1937 1453 2065">★ アートフォーラムあざみ野の様子から、障がい者の方の視点に立って課題を見つけようとしている。</p> |

| | | |
|-----------|--|--|
| 8~ 10 | <p>アートフォーラムの工夫を見つけよう。</p> | <p>○施設の人の思いをとらえることができるようにする。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・手すりが弱い力でも握りやすい形になっているね。 ・エレベーターや館内案内板など、いろいろな場所に点字が使われているね。 ・車いすでも使いやすい水飲み場や自動販売機がある。 ・大きくてゆったりとしたつくりで移動しやすいね。 ・館内の床にまったく段差がないよ。 | <p>★見学活動を通して、施設の人に質問しながら、館内のバリアフリーや様々な工夫について情報を集めている。</p> |
| 11 | <p>地下鉄あざみ野駅は、どんな場所だろう。</p> | <p>○視点をもって見学できるよう事前に意識づけをする。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・駅は階段がたくさんあるけれど・・・。 ・目の不自由な人は改札口の方角が分からなくて困りそうだね。大勢の人にぶつかってしまうんじゃないかな。 ・耳が不自由だと人に聞くのも大変だね。 ・切符がうまく変えるかな。 | <p>★地下鉄あざみ野駅の様子から、障がい者の方の視点に立って課題を見つけようとしている。</p> |
| 12~ 14 | <p>地下鉄あざみ野駅の工夫を見つけよう。</p> | <p>○駅で働く人の思いをとらえることができるようにする。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・改札口の方角を示す音声が流れていたよ。 ・券売機やホームドアに点字が使われている。 ・車いすの人の乗り降りを手伝う板を出してもらえる。 ・駅長さんは、あっちこっちと言わずに「○時の方向ですよ。」と案内するそうだよ。 | <p>★見学活動を通して、駅の人に質問しながら、館内のバリアフリーや様々な工夫について情報を集めている。</p> |
| 15 | <p>山内のまちのバリアフリーについて、気づいたことを話し合い、これからの学習計画を立てよう。</p> | <p>○公共施設やまちの見学を振り返り、まちのバリアフリーの様子を整理してとらえられるようにする。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・「バリアフリー」というのは、「壁を取り払う」、つまりだれもが公平に自由にしたいことができることだと施設の人が話してくれたよ。 ・施設には、だれもが安心して利用できる工夫がたくさんあった。 ・分かったことを新聞などでまとめてみよう。 ・障害のある方はどんな思いでくらしているのかな。 ・実際に会ってお話を聞いてみたいな。 | <p>○当事者の生活の様子にかかわる児童の考えに着目し、次の交流活動へと意識をつなげる</p> <p>★公共施設の見学からわかったこと、考えたことを整理して話している。</p> |
| 16 | <p>目の不自由な人のくらしや、思いについて知りたいな。</p> | <p>○交流活動に向けて、視覚障がいについて学んだり、当事者の方が実際に使っている道具を見たりしながら、その暮らしの様子を考えるようにする。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・施設やまちには目の不自由な方のための工夫が多いね。 ・誘導ブロックを使う視覚障がいの人は、どんなくらしをしているのかな。 ・どんな思いで生活しているのかな。 | <p>★課題意識をもち、視覚障がいについてとらえようとしている。</p> |

